

漢陽大学校 立命館大学 国際学術大会

地域文化の理解と日本学研究

ー東アジアにおける安保環境の変化と対応ー

日時 2024年 2月22日 (木) 9:50-17:20

場所 立命館大学衣笠キャンパス

平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム

言語 日本語

プログラム

開会の挨拶

金 志英 (漢陽大学校)

基調講演

中戸 祐夫 (立命館大学)

第1セッション (10:40~12:30)

司会 金 志英 (漢陽大学校)

沈 慧仁 (漢陽大学校)

日本の防衛力増強及び防衛産業の復活の試みに対する再考察

徐 聖鉉 (立命館大学)

なぜ日韓の議会は政治主体の多極化を実現できなかったのか一日韓民主主義の比較から

Hsueh Yu-Ting (國立政治大學)

Can a 'Silicon Shield' Protect Taiwan? An Offensive Realist Perspective

李 文心 (デラウェア大学)

冷戦終結後の日本の外交力と地域安保協力枠組みの構築におけるリーダーシップ

ディスカッション 佐藤 太久磨 (漢陽大学校)

第2セッション (13:30~15:20)

司会 山田 歩 (滋賀県立大学)

ブン センリン (漢陽大学校)

日本の対中輸出規制について

松澤 圭祐 (立命館大学)

バイデン政権の外交政策

金 崢 (漢陽大学校)

日本の経済安全保障と日中関係一輸出規制を中心に

張 恵林 (立命館大学)

天安門事件における日中関係、日本外交と中国の改革開放路線を中心に

ディスカッション 浅羽 祐樹 (同志社大学)

第3セッション (15:30~17:50)

司会 朴 奎泰 (漢陽大学校)

パク ソンミン (漢陽大学校)

世界における韓国と日本の文学の位置—出版市場を中心に

金 永彩 (漢陽大学校)

アニメによる日本の戦争記憶の再構成—『宇宙戦艦ヤマト』を事例として

朴 主言 (漢陽大学校)

学習行動を促進する内在的要因の探索的検討—動機的信念、メタ認知、自己統制力が学習時間に及ぼす影響

Zykova Sofia (立命館大学)

日ロ関係における認識の違い、又人的交流の役割について (第二次安倍内閣を中心に)

ディスカッション 李 俊榮 (漢陽大学校)

主催：漢陽大学大学院日本言語文化学科BK21FOUR「地域文化の創出と人文活動方法論を構築するための日本学研究チーム」

共催：立命館大学東アジア平和協力研究センター (CEAPCS)

問合せ：ceapcs@st.ritsumeai.ac.jp (CEAPCS)